

平成29年度 公益財団法人目黒区国際交流協会事業方針

国際化から多文化共生社会へ

浅草を始め、都内の観光名所では、日本人より外国人の方が多いと感ずることが、今や日常的になりつつあります。1月17日の日本政府観光局の発表で、昨年1年間の訪日外客数が2,403万9千人で前年比21.8%増加したと報じられました。国別では、中国が27.6%増の637万人で初めて600万人を超えました。韓国は509万人27.2%増で初めて500万人を超えました。一方、1月1日の都内の外国人人口は、8.3%増の486,346人で、目黒区の状況は、人口は273,708人で前年比は100.8%と微増ですが、外国籍住民は8,094人104.1%と高い伸びとなっています。

目黒区では、「多文化共生区民フォーラム」の提言を受け、「めぐろ多文化共生推進ビジョン」を3月に策定し発表します。外国人も日本人も、共に育ち、学び、働き、そして生活する地域社会が形成されつつあります。MIFAは、「人々の国際相互理解を促進し、多様な文化を認めあい、人間の絆をはぐくむ豊かな地域社会の形成に寄与する」の実現に向け、目黒区及び会員の皆様とともに事業の一層の拡充に努めてまいります。

【事業方針】

1 めぐろ多文化共生推進ビジョンを起点として

協会は、ビジョンの施策目標である「外国人住民が安心して生活し、働くことができる環境整備」「外国人住民の地域社会への参加促進」「区民と外国人住民との共に歩む意識の醸成」の具体化に向け、目黒区と共に取り組んでいきます。

2 来外客の期待に応えるために

昨年は、東京都の「外国人おもてなし語学ボランティア養成講座」を開催し、30名余の修了者が誕生しました。本年度も継続して取り組み、2020オリンピック・パラリンピックに向け、一層増加することが予測される、来外客の期待に応えていけることを目指します。

3 区内大使館と協力して

区内には12の大使館があり、国際交流フェスティバルにおいて、多くの区民の方々との交流が図られています。しかし、多くの区民にとっては、まだ大使館が身近な存在にはなっていません。大使館と協力し、地域の人々とのさらなる交流が図られ、豊かな地域社会が実現することを目指します。

平成29年度

事業計画書

公益財団法人目黒区国際交流協会